

9月19日(木) 第4回教養アップ講座を開催しました。

「生物学における可視化技術 ― 百聞は一見に如かず ―」

講師 早稲田大学先進理工学部生命医科学科 井上 貴文 教授

今回の講座は、古くから身体の器官を可視化する技術として利用されてきたレントゲンから始まり、現代のMRI技術による生きた人間の脳、内耳の3D画像、それもあらゆる角度からそれを眺められるという技術にまずは驚かされました。次に、細胞、分子、原子とスケールが小さくなっていきながらも、技術開発により次々にそれらの挙動が可視化され、生命の営みがいかなるものかを「見る」ことができるようになったとお聞きし、研究者の飽くなき探求心に感銘を受けました。今回1時間で紹介していただいた可視化技術には9個ものノーベル賞が与えられており、その技術開発の意義の大きさが伺われました。生物、医療分野において可視化技術は大いに役立っており、特に医療の発展に大きく貢献しているという新たな認識が持てました。

